

# 水戸市台渡里遺跡(茨大運動場地点) 発掘調査現地発表会資料

(所在地：水戸市渡里町前原 2839)

## 今回の目的

茨城大学の教育・研究活動、今回の発表を通して地域への社会貢献を目的とします。

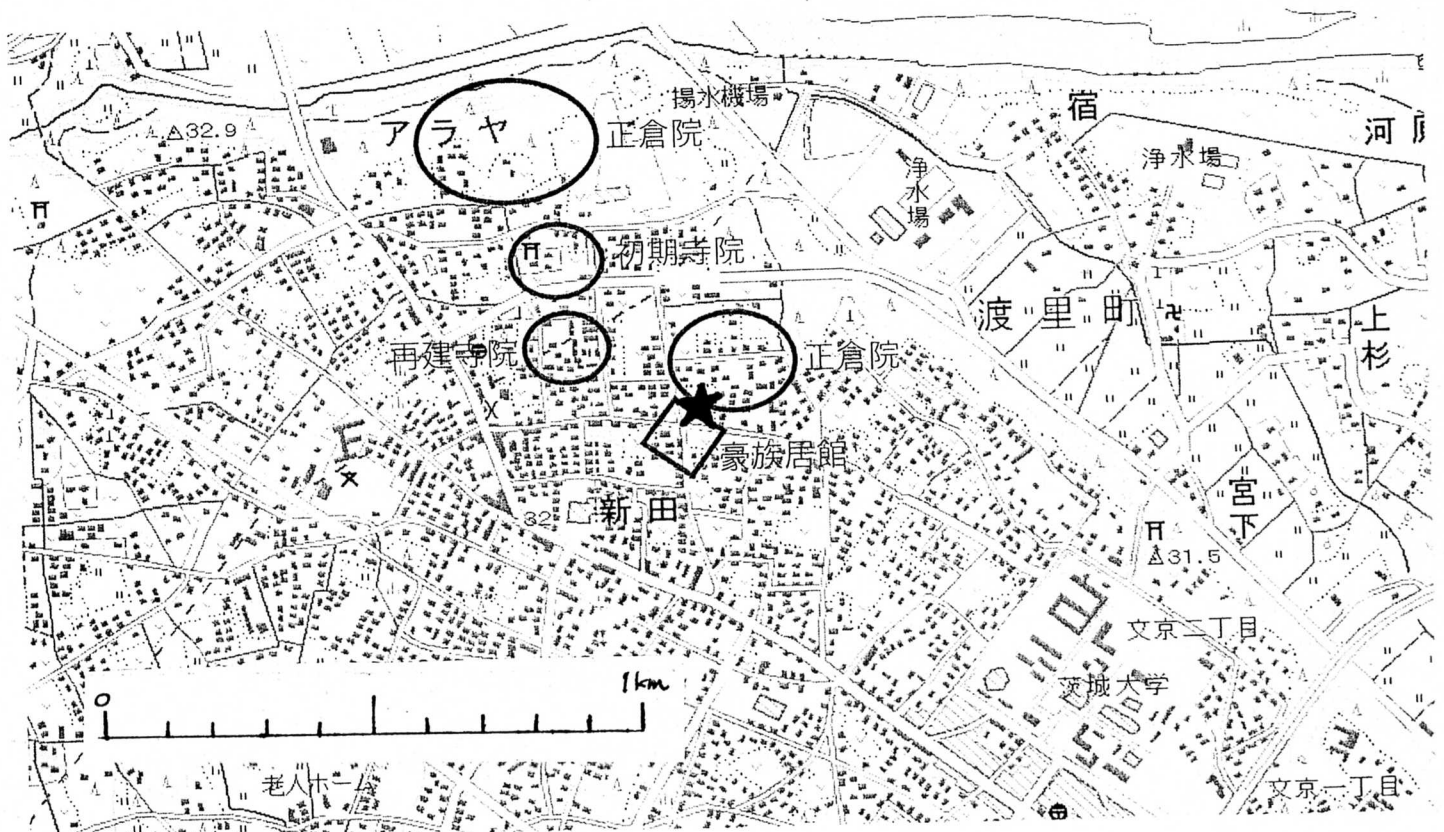
## 調査のきっかけ

現地は国定指定史跡・台渡里廃寺跡のすぐ隣接地であり、かねてより重要な古代遺跡が埋蔵されているとみられていました。今年6月の水戸市の調査で、この地点の近くから、これまで想定されてこなかった「豪族居館」に伴うとみられる堀が発見されました。そこで、今回はその「豪族居館」の存在を確かめることを目標として調査を行いました。

## 今回の成果

台渡里遺跡では、7世紀後半に建設された台渡里廃寺と、8世紀以降の那珂郡家を構成する正倉院跡(倉庫群)が隣接していることが知られていました。これに加えて、今回の調査では、きわめて至近距離にそれらに先立つ古墳時代の「豪族居館」が存在していたことが確定的となり、さらに、そのおよその規模と形状を確認することができました。確認された箱形の堀は、通例の豪族居館よりもかなり立派な作りとなっています。

「豪族居館」と、そのあとに作られた古代の郡の「正倉」とが、同一調査地点で発見されることは極めて異例のことであり、古墳時代から奈良時代への移行期において、地方政治の担い手が引き続き同一集団の手に握られていったことを示唆しており、全国的にもきわめて価値の高い資料とみられます。

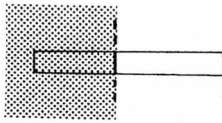
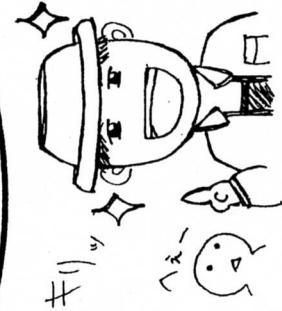


# ねも

## 台渡里遺跡 茨大運動場地点

掘込地業(※)が見つかり、奈良平安時代(8~10世紀ごろ)の那珂郡の役所に伴う正倉(※)であることが分かりました!!

掘込地業が見つかるとは、非常に珍しいことなのです!!



掘込地業(倉庫跡)

## 茨城大学今回調査区

堀の内側に柵があることが分かっています!!

豪族居館(※)の堀の一部が  
出ました!! 深さは約2mです。  
これにより一辺75mの方形の堀が  
めぐっていることが分かりました!!

堀は深く、キケンです。



ご注意ください!!!

0 20m

堀跡(豪族居館)

この居館は古墳時代終末期(7世紀)までに建てられたと考えられます!!



## 水戸市調査区

幅約7メートル・底幅3.7メートル、断面が逆台形の堀が水戸市調査区から見つかりました。



## 用語解説

### ※掘込地業：

大がかりな建物を造るための基礎工事のこと。  
工事は、土を入れながら平らに突き固める「版築」と呼ばれる方法をとります。

### ※正倉院：

古代の役所が所有した公の倉庫群。税である米を保管するためのものです。

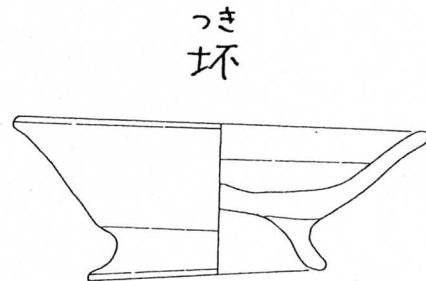
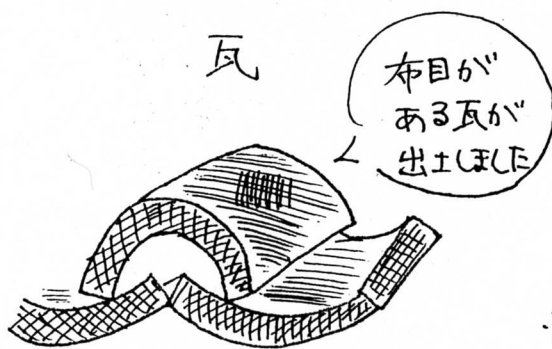
### ※豪族居館：

古墳時代に地域を支配していた有力者の館。  
多くの豪族居館の内容は謎にまつまれています。

## 今回調査区から出土した遺物

(主に正倉跡から)

瓦や坏(食器)のほか、正倉跡からはたくさんの玉砂利が出土しました。



※ この坏は台渡里遺跡第43次発掘調査で出土したものです。(水戸市教育委員会 2006年)

〈溝状遺構SP01出土遺物〉

発行：茨城大学人文学部考古学研究室

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号

発行日：2008年9月7日

現地発表会 主催：茨城大学(人文学部考古学研究室)

共催：水戸市教育委員会(文化振興課)

後援：茨城大学五浦美術文化研究所